第3回かほく市デジタル田園都市構想総合戦略推進会議

議 事 概 要

日 時：令和7年3月10日（月）13:44～14:31

場 所：かほく市役所2階 議会会議室

1. 開会
2. 議事
 - ①かほく市デジタル田園都市構想総合戦略及び人口ビジョンについて
 - ②かほく市デジタル田園都市構想総合戦略個票について
3. 事務連絡
4. 閉会

委 員 名 簿

整理 番号	選出組織・団体	職	氏名	出欠
1	かほく市商工会	会長	南 春夫	欠
2	石川かほく農業協同組合	代表理事専務	村井 一宏	出
3	石川県立看護大学	教授兼附属図書館長 DX推進委員会委員長	小林 宏光	出
4	金沢学院大学附属高等学校	副校長	谷内 正樹	出
5	かほく市町会区長会連合会	会長	西田 省三	出
6	かほく市女性協議会	会長	松村 千恵	出
7	株式会社 北國銀行	公務部部長	山田 泰輔	出
8	金沢公共職業安定所	所長	佐々木 利弘	出
9	株式会社 P F U	取締役常務執行役員 地域貢献部部長	宮内 康範 松田 千穂	欠 代理
10	かほく市社会福祉協議会	常務理事	越井 謙一	欠
11	かほく市	副市長	竹本 重久	出

議 事 概 要

○各委員、●かほく市事務局

1. 開会

2. 議事

①かほく市デジタル田園都市構想総合戦略及び人口ビジョンについて

・事務局より、かほく市デジタル田園都市構想総合戦略及び人口ビジョンについて、会議資料に沿って説明。

【質疑・意見交換等】

意見なし

②かほく市デジタル田園都市構想総合戦略個票について

・事務局より、かほく市デジタル田園都市構想総合戦略個票について、会議資料に沿って説明。

【質疑・意見交換等】

(委 員)

- ・個票のNO. 32「石川県立看護大学及び県内大学による地方創生推進事業」について、令和7年度の具体的な取り組み事業が記載されているが、これはすでに大学側の担当者も決まっています、実施されることが決まっている事業なのか。

(事務局)

- ・協定に基づき、年2回看護大学と市との間で会議を実施しており、事業の進捗の共有や、次年度実施する事業等を協議している。その中で担当する先生等もすでに決定していると認識している。

(委 員)

- ・かほく市の公式SNS(インスタグラム等)をフォローしているが、内容がすごくよい。これは現在こういった体制で行っていて、今後はどのようなようになっていくのか。

(事務局)

- ・シティプロモーション事業という枠組みの中で、企画振興課職員が中心となりアカウントの運用を行っている。もともとは定住促進事業の位置付けで行っていたが、現在は地域振興ということで、市の特産品の紹介や、ブルーキャッツの発信を通じた市のPRなど少し幅広に展開している。次年度以降も、引き続き市内でのいろいろな情報や、市役所内で行っている取り組みなどを発信していければと考えている。

(委 員)

- ・県外の方と話していると、西田幾多郎が話題にのぼることが意外とある。哲学ファンというのはやはり一定数いるので、哲学館の発信をもっと積極的に行ってはどうか。

(事務局)

- ・今年度市の公式Instagramでは、哲学館を題材としたフォトキャンペーンを行った。市内の方だけではなく、市外の方も多く参加していたようなので、またこのような仕掛けも行っていきたい。哲学館は市の公式Instagramとは別に単独でアカウントを持っているが、フォロワー数が少なく、そのあたりは改善の余地があると考えている。

(委員)

- ・哲学館に関しては、令和5年度からあらたな試みとして、かほく市観光物産協会主催で「哲楽夜市」という催しも実施しているのでご承知おき願いたい。

(委員)

- ・哲学館は哲学をテーマにした日本唯一の博物館であるという面とは別に、安藤忠雄の建築物であるという建物としての魅力もあり、やはりかほく市の魅力発信の重要なリソースの一つであることは間違いない。

(委員)

- ・総合戦略 1-10 ページ基本方針 1-②【新たな時代を捉えた地場産業の振興と飛躍】について、ここで「各種団体が連携し、市内事業所の人材確保の促進を図る。」を追記していただけてよかった。創業支援や企業誘致も大事だが、既存の中小企業、優良事業所の支援もとても大切である。また、個票の NO.3 「がんばる中小企業に対する支援事業」にも令和7年度の取り組みにハローワークとの連携を明記いただいたことに感謝する。かほく市の企業における若年労働力の確保や、人材のマッチングは我々の腕のみせどころだと思っているので、これまで以上に市と連携を密にして取り組みを進めていきたい。

(委員)

- ・総合戦略 1-34 ページ市民アンケートの結果の「かほく市に戻らないと回答した理由」について、「やりたいことがかほく市にはないから」が最多であるという事が、市内で事業を行っている企業としては残念ではある。これからは第1～3次産業だけでなく、新産業、第4次産業とも言われているような、若い方々が取り組んでいるような企業の誘致という事も考えていってもよいのではないか。

(委員)

- ・高校生に対して、かほく市の企業を紹介するような場は何かあるか。

(事務局)

- ・現在、かほく地区ということで、津幡町・内灘町・かほく市とハローワークで、高校の先生に向けて市内の企業が自社のプレゼンを行うという場は持っている。高校生を直接対象とした会社説明会等を行っていないが、今後ハローワークとも連携し、そういった仕組みづくりを進めていきたい。

(委員)

- ・防災面について、かほく市ではほとんどの区・町内会で自主防災組織を形成しており、また避難所(小中学校)に対応する形で、各校区ごとにも防災組織を形成している。非常時には、防災組織に加え、防災士や民生委員などの方々の活躍が非常に期待される。しかし、それぞ

れの組織を管轄する市役所の部署が異なり、十分な連携が取れていないと感じる。本来であれば、各組織が連携することでより大きな効果を生み出せるはずであるため、スムーズに協力できる体制への改善を望む。

(事務局)

- ・今回の能登半島地震を通じてさまざまな経験をし、それらをしっかりと教訓として受け止めている。委員が指摘された連携不足についても、重要な課題として認識しており、来年度には防災計画の見直しを予定しているため、確実にフォローアップできる計画を策定するつもりである。

(委員)

- ・本学では、これから災害専門の看護学講座を作る。これは全国的にも珍しい取り組みであり、災害対応についてもいろいろと市と連携していけると考えている。

(委員)

- ・個票のNO. 21「石川中央都市圏連携事業の推進」について、具体的には中央都市圏での連携とはどのようなことを行っているのか。またかほく市にとってのメリットはあるのか。

(事務局)

- ・具体的な事例で言えば、金沢広域急病センターの小児科は中央都市圏の4市2町で運営しており、夜間でも子ども達の急病に対応してもらえる体制が構築できたということで、圏域全体として、子育て支援の方に力を入れているという事をアピールできた1つの好事例ではないかと思っている。

(事務局)

- ・補足として、他にも消防の通信指令事務の共同運用や、文化財の周遊ツアー、シティプロモーションという面では、金沢市の知名度を生かして全国へ情報発信を行う、などといったように多方面に渡って連携の取り組みを行っている。

3. 事務連絡

4. 閉会

- ・千田地域政策部長 挨拶

以上